



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第110号

2021年3月8日

令和3年度年次総会概要決まる

総会は5～6月にリモート開催
研究発表・シンポジウム・見学会は10月に秩父で

新型コロナウイルス感染症流行の終息が未だ見えないところですが、3月6日(土)開催の理事会におきまして、今年度の年次総会・研究発表会・シンポジウムについて検討し、以下の大筋をまとめました。

まず総会審議は5・6月中にインターネットによるリモートにより実施し、研究発表・シンポジウム・見学会は10月23日(土)・24日(日)に秩父神社で開催することとしました。それぞれの詳細については、次号でお知らせいたします。

今回、状況が定まらない中での決定、特に対面方式で研究会等を実施するに至った経過をご説明いたします。

理事会では、例年通りの開催や総会・研究発表・シンポジウムのみをリモートで実施するなど4案について検討、予算執行の関係上、総会審議は6月までには終えたいということ、社叢学会としては見学会が肝となる行事ではあるが、同時開催にはいささか無理があるだろうということから、時期を分けることとしました。10月後半になれば、ワクチン接種もある程度進んでいるでしょうし、五輪等の経験を通じて、イベント等の開催に関する指針・対策もある程度確立されているだろうことも、対面式での実施の後押しとなりました。

とは言え、十分な感染対策をすることはもちろ

んのことで、会合会場は十分な広さと換気を確保し、見学会はバス2台に分乗するなど、状況に併せた対策を徹底して参ります。

1人でも多くの会員の皆さま方にご参加いただきたいと願ってはおりますが、事情ご賢察の上、それぞれのお考えに従ってご参加いただければありがたく存じます。

10月23日(土):秩父神社

11:00～11:30	秩父神社正式参拝
11:30～12:45	研究発表
12:45～14:00	昼食と秩父神社柵の森拝観
14:00～18:00	シンポジウム
17:45～18:30	懇親会 於：秩父神社

10月24日(日)見学会:三峯神社参拝と拝観

9:00	西武秩父駅集合、三峯神社に
10:30～15:30	三峯神社正式参拝・拝観
17:00～	武甲山経由で秩父今宮神社へ
18:00	西武秩父駅解散

研究発表者募集!

テーマ：社叢に関する理論的研究や社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究

※ いずれも未発表のものに限る

発表時間：20分(報告15分+討議5分)

応募締切：2021年8月末日必着

応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300～400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付



春日山原始林観察会

話題提供： 前迫 ゆり(社叢学会理事・大阪産業大学教授)
渡辺 弘之(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)



イチイガシの巨樹(上)
春日大社境内のナギ林(左)

久しぶりに開催した関西定例研究会は秋晴れの春日山探索となった。春日山原始林は奈良市東部に位置し、標高498mで面積は約250ha。春日大社の神域として、9世紀頃には禁伐令が出されるなど積極的な保護によって原始性を保ってきた。ただ、厳密な意味での原始林ではなく、16世紀には豊臣秀吉が約1万本のスギを植栽したほか、歴史上数回に亘る台風災害による壊滅的被害からの早期回復を図るために、在来種を補植するなど、人の手が加えられてきた。

林相は、常緑広葉樹(カシ・シイ類)を主とした暖帯林を代表とし、暖地性の蔓性植物(フジ・カギカズラ)



前迫理事の説明にシカも耳を傾けている？

やシダ植物(ウラジロ・イワヒメワラビ)も多い。また温帯性、寒帯性の樹木も混生し800余種からなる多様な植生が保たれている。

都市近郊にありながら原始性と特異な林相、学術的価値の高いことから、1924(大正13)年に天然記念物に、1956(昭和31)年には特別天然記念物に指定された。

例年ならば紅葉の最盛期で多くの人出がある時期ではあったが、今年は人影もまばらで、前迫理事からの説明を聴きながら若草山までの探索を楽しんだ。春日山ではシカによる食害が著しいが、これまで不嗜好植物とされたクリンソウなども食べるようになっており、天然記念物であるシカと森の共存に知恵を絞らねばならないことを実感した。中でもシカが食べない外来種

のナンキンハゼは、伐採しても旺盛な発芽能力を持っているために尾根筋などを席卷しており、対策の重要性を感じながらの散策となった。



立ち入り禁止の先では厳重に自然状態が守られている

東日本大震災社叢復興支援事業報告書を発行

あの日から10年。被災直後から8年間の全てを記録

現地調査員の生の声も 頒価 3,000円

今回の賛助会員神社社叢紹介は、太宰府天満宮を取り上げる。太宰府天満宮は2006(平成18)年及び2019(令和元)年年次総会の会場として使わせていただいた。受験シーズンのみならず、内外からの参拝者でにぎわった境内も、今は静けさの中で、梅の香りが道真公の偉勲を伝えている。

賛助会員神社の社叢

太宰府天満宮



天神の森

太宰府天満宮

平安時代前期に右大臣であった菅原道真公(菅公)の墓所の上に社殿を造営し、その神霊を祀ったことに始まる。全国1万有余の天満宮の総本宮とも仰がれ、「学問・至誠・厄除けの神様」として、日本全国のみならず世界中からも崇敬を集め、年間に約1000万人の参拝者が訪れている。

所在地：太宰府市宰府4-7-1

祭 神：菅原道真公

太宰府天満宮は、福岡市の南東約20kmの地点に位置する。英彦山系支脈である筑紫山地は北部の三郡山地と南部の背振山地に分かれるが、天満宮は三郡山地の南端、修験道の聖地である宝満山の西麓、丘陵に囲まれた扇状沖積地にある。

時の権力者であった藤原時平の讒言を受け大宰府に左遷された菅原道真公は、903(延喜3)年2月25日に59年の生涯を終えた。遺言に従って遺骸を牛車に乗せて運んだところ、間もなくその牛が伏して動かなくなったので、その地に埋葬された。これが現在の本殿の真下で、同年8月19日、京より追従した門弟・味酒安行(うまさけやすゆき)が神託によって神殿を建てたとされている。

神を祀る神殿の成立には、神を迎えるために清浄な場所に仮の殿舎を造るといった過程もあるが、ここでは全く別の経過をたどることとなった。クスノキの自然林が森閑とした地に先に神が鎮まり、その後、神殿が創建されたのである。菅公が心になかった墓所を天神信仰の聖地として選定したといえよう。社域約33万㎡は総称して「天神の森」と呼ばれ、信仰の誕生に大きな関わりを持っている。西側の扇状沖積地に社殿や神殿があり、東側北部に天神山、南部に牛臥山がある。この2つの山は、鎮守の森を形成

し、後背林として永く本殿を様々な意味で守ってきた。しかし、古代にわが国初の計画都市である大宰府が建設され、西海道の要地になったことで、人物の往来が盛んになったこと、さらに太宰府天満宮の創建により、門前町を生み「さいふまいり」として参詣者が絶えなかったことが、森林に対する人の干渉を著しく促し、人為的影響の強いものになっていることは否めない。

とは言え神社の森が市街地にもかかわらず良質な森林と緑地を維持してきた意義は大きい。境内の西側には国・県指定天然記念物のクスノキ51本の合間を縫うように梅林が配置されている。東側はこの地域に典型的な照葉樹林帯で形成され、スダジイ・アラカシ・シラカシ・イチイガシ・タブ・カゴノキナドノ、カシ・シイ類に代表される常緑広葉樹が自然のままに残された森なのである。特に、スダジイの原生林は、数少ない貴重な自然として学会の注目を浴びている。

太宰府天満宮の神苑といえば、約200種約6千本の梅の名所として広く知られるところであるが、梅は道真公のこよなく愛された植物で、中国からの渡来木でもある。境内は、毎春ほのかな香りに包まれている。長い天神信仰の歴史の中で、神前に梅木を奉ることを「献梅」と言い、絶えることなく今に伝えられている。また境内にはクスノキの老木が林立しており、参拝者に心の安らぎを与え、神社の荘厳さを感じさせ、広く親しまれてきた。

境内にあるクスノキの老木2本は、「ヒロハチシャノキ」とともに、1922(大正11)年3月に国の天然記念物に指定され、これ以外のクスノキが1961(昭和36)年1月に県の天然記念物に指定された。その後、1977(昭和52)年には境内梅苑とその周辺の植生調査とともに、国指定天然記念物2本を含む52本の老樹を対象に調査が行われ、『太宰府天満宮境内の植生に関する調査報告書』が作成された。

この当時から境内の平坦地にあるクスノキに衰弱の兆候が観測されていたため、天然記念物のクスノキ2本など、個別に養生工事が実施されてきた。中でも境内の広場中央にあった大木のクスノキは、後に樹齢約330年と推定されたが、踏圧や樹肌への傷つけも著しく、根上がりもひどいこともあって、土留めや嵩上げ、施肥などが実施されたが、90年代に入ってさらに著しく衰退し、さらに実施した養生工事の甲斐もなく、1993(平成5)年11月には実質的に枯死し、翌年5月に伐採された。

その他のクスノキにも衰退の兆候が観察されるようになったことから、1994(平成6)年に土壌分析調査を実施、衰弱木周辺の土壌改良工事を実施したが、いずれも回復の兆しはみられず、衰弱枯死の兆候が顕著となった。そこで、1996(平成8)年から5年計画で、原因の解明と養生工事の検討を徹底して行うことになった。順次実施した大規模な養生工事のなかでも土壌の総入れ替えによる植栽地盤の改善が大きな効果をもたらし、瀕死状態にあったクスノキと、その周辺のクスノキの樹勢を回復することに成功した。

社叢学会 設立の経過

会誌『社叢学研究』創刊号に本学会が設立の前史からNPO法人申請までの経過が掲載されている。これによると今を去る40年以前に「鎮守の森」の環境学的見地からの調査・研究が始まっている。そこからさらに20年、社叢学会の設立を目指し、準備委員会が発足、2002年5月の発足に漕ぎつけた。会誌掲載の一文は以下の通り。

昭和56年(1981年)6月、上田篤大阪大学教授(当時)の首唱により同大学工学部環境工学科に「鎮守の森保存修景研究会」がつくられ、環境工学の教官・学生を中心に鎮守の森の環境工学的・造園学的研究が始まる。滋賀県(1982年)・大阪府(1983年)・名古屋市(1983年)から調査研究の委託を受け、その研究成果を報告すると同時に、その概要をまとめて『鎮守の森』(1984年3月、鹿島出版会)を出版する。同年、6月、環境庁・財団法人環境調査センター環境優良賞を受賞する。

平成10年(1998年)4月、上田正昭京都大学名誉教授、上田篤京都精華大学教授(当時)の提唱により、歴史学、地理学、民俗学、考古学、植物学、動物学、建築学、都市計画学の研究者を中心に社叢学研究会が発足、同年6月から2カ年にわたってサントリー文化財団の研究助成を受け、その成果の一部を『鎮守の森は蘇る』(2001年10月、思文閣出版)として出版する。

平成13年(2001年)10月、上田正昭、上田篤京都精華大学名誉教授の呼びかけにより、研究者・学生・行政マン・企業従業員・神職・市民らの有志の参加を得て社叢学会設立準備委員会が発足し、事務所を大阪府中央区谷町に設け、社叢学会の設立に向けて諸種の準備が進行する。とどろきに同年12月、翌14年1月、3月の各月に定例研究会が開催される。また、社叢調査のための手引書の作成、NPO法人申請その他が進行し、現在に至る。

この後、2002(平成14)年10月17日に内閣府においてNPO法人が認証されたが、爾来20年、愛知万博への出展、東日本大震災被災社叢調査など、旺盛な活動を今日まで続けている。前史を含め、40年にわたる社叢への関与を今後も保ち続け、さらに豊かな森の文化への創成に尽くしていきたい。

茂木栄理事(國學院大學教授)最終講義

茂木理事の國學院大學教授としての最終講義が3月19日(金)15時~16時30分に、ZOOMによるオンラインのみで開講される(要事前予約)。テーマは「祭と杜(もり)調査の45年を振り返る」で、3月17日までに下記から予約されたい。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/event/219359>

事務局から

- あれから10年の日を迎えます。残念ながら、社叢学会として特別の行事や現地調査などはできませんが、被災地のことを忘れることはありません。大杉神社(岩手県山田町)に植樹したオオヤマザクラは無事に花を咲かせているのでしょうか。いつか心おきなく遠出ができるようになれば、必ず見に行きたいと思います。
未だに続く余震、なかなか進まない原発廃炉作業など、まだまだ続く苦難に思いを致し、心静かに祈りを捧げる日にいたしましょう。
- 総会の開催方法を検討する理事会の開催を待ちましたので、少し遅くなりましたが、会誌『社叢学研究』第19号を同封いたしました。行動が制限される中でも、「活動報告」や「社叢訪問記」など、会員の皆さま方にご投稿いただきました。ぜひ、ご一読ください。
- 今年の総会は別記の通り、変則的な開催となります。10月にはワクチン接種も進み、感染状況も落ち着いているだろうという思いを込めての開催形態といたしました。もちろん、どのような状況になるかは、予測不能な部分もありますので、変更もありうるかと存じますが、その時には社叢学会ホームページにて随時、ご報告いたします。チェックのほど、よろしく願いいたします。
少し先になりますが、再び皆さま方と直接お話ができるものと楽しみにしております。それまで予防専一に、ご自愛ください。

編集後記

あれよあれよという間に困ったことに！ と書いて早1年。困ったことの中身がここまで大変だなんて聞いてないよお。こんな長い間、日本にいたのは何年ぶり(こほ!)!? ってか、県境を超えるのもアカンて。中でもタイヘンなのが飲食店ですよね。「黙食」って、友達とご飯に行って黙って食べるって、どうよ。美味しいお店を見つけては元気よく感想を語り合うのが大好きな大阪人としては、ほんっと腕をもがれたよう(ん?!)。。。てなお気軽なことを思いつつランチを求めてうろついていると、アイリッシュバーでのカレーパンランチを発見！これが話題の空いている時間貸しか？ランチにしては妙に薄暗いのだけれど、これもまたよし。何でも良いから、美味しいご飯を出してくれていたお店が無くならないことだけ願いですっ！。(藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com